


# 安全データシート

作成日 : 1995 年 6 月 26 日, 改訂日 : 2019 年 12 月 4 日

1 製品及び会社情報	
製品の名称	オートプロテクター A (半艶タイプ)
供給者の会社名	オート化学工業株式会社
住 所	東京都台東区上野 5-8-5
電話 番 号	03-5812-7310
緊急連絡先	生産本部 環境品質保証部 029-831-0913 (ファックス番号 029-831-0923)
推奨用途	シーリング汚れ防止剤 (半艶タイプ) (エアゾール製品)

2 危険有害性の要約			
特有の危険有害性		蒸気は空気より重く、低所に滞留し爆発性混合ガスを作りやすい。蒸気が遠くへ流出して着火するおそれがある。	
GHS 分類	物理化学的 危険性	エアゾール	区分 1
	健康有害性	急性毒性 (吸入)	区分 4
		眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	区分 2B
		発がん性	区分 2
		生殖毒性	区分 1
		特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2, 3
		特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2
	環境有害性	水生環境有害性短期 (急性)	区分 2
		水生環境有害性長期 (慢性)	区分 3
※上記で記載が無い危険有害性は区分に該当しない、又は分類できない			
GHS ラベル 要素	絵表示		
	注意喚起語	危険	
	危険有害性 情報	極めて可燃性の高いエアゾール。 高压容器：熱すると破裂のおそれ。 吸入すると有害。 眼刺激。 発がんのおそれの疑い。 生殖能または胎児への悪影響のおそれ。 臓器 (呼吸器系・中枢神経系・肝臓・腎臓) の障害のおそれ。 呼吸器への刺激のおそれ。 眠気またはめまいのおそれ。	

	<p>長期にわたる又は反復ばく露による臓器（呼吸器・神経系）の障害のおそれ。 水生生物に毒性。 長期継続的影響によって水生生物に有害。</p>
注意書き	<p>熱、火花、裸火、高温物付近での施工はしないこと。 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 蒸気を吸入しないこと。 作業の際、適切な保護具（保護手袋、呼吸用保護具、ゴーグル等）を着用すること。 本来の用途以外には使用しないこと。 取扱後は手をよく洗うこと。 皮膚や眼に付着した場合、多量の水でよく洗い、体に異常を感じた場合は、速やかに医師の診断を受けること。 子供の手の届かない所に保管すること。 環境中に廃棄しないこと。 内容物や容器を廃棄する時は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>

### 3 組成, 成分情報

化学物質・混合物	混合物			
GHS 分類に寄与する成分（不純物含む）	酢酸エチル・キシレン・エチルベンゼン			
組 成	化学名又は一般名	濃度範囲 (wt%)	CAS RN	官報公示整理番号(化審法)
	ウレタン変成アクリル樹脂	5~15	—	既 存
	酢酸エチル	40~50	登 録	既 存
	キシレン	1~10	登 録	既 存
	エチルベンゼン	1~10	登 録	既 存
	ジメチルエーテル	30~40	登 録	既 存

### 4 応急措置

吸入した場合	<p>気分が悪くなった時は、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。衣類をゆるめ、保温、安静を保ち、速やかに医師の手当てを受ける。</p>
皮膚に付着した場合	<p>汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯で流しながら石鹸を使って洗浄する。炎症や痛みなどの症状がでた場合は、医師の手当てを受ける。</p>
眼に入った場合	<p>清浄な水でゆるやかに最低 15 分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。コンタクト着用の場合、容易に外せる場合は、外して、まぶたの裏まで完全に洗浄する。</p>

飲み込んだ場合	無理に吐き出させず、ただちに医療機関へ搬送して処置を受ける。 水で口の中をよく洗わせてもよい。被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。
---------	---

<b>5 火災時の措置</b>	
適切な消火剤	炭酸ガス・泡・粉末・乾燥砂
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	蒸気は空気より重く、低所に滞留し爆発性混合ガスを作りやすい。蒸気が遠くへ流出して着火するおそれがある。 樹脂の燃焼によりシアンガスの有害成分が発生する。
特有の消火方法	可能であるならば、可燃性のものを周囲から速やかに取り除く。消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	適切な保護具（耐熱着衣、呼吸用保護具等）を使用し、可能な場合は風上から消火する。

<b>6 漏出時の措置</b>	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業は換気の良い場所で行う。 換気が十分でない場合には局所排気装置を使用する。 必要に応じ適切な保護具（保護手袋、呼吸用保護具、ゴーグル等）を着用する。
環境に対する注意事項	本製品を環境中（水域、土壌）に流出させてはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	回収、中和：漏出物はウエスで拭取り蓋付き容器に回収し換気の良い安全な場所で保管して処理を依頼する。
二次災害の防止策	周辺での火気の使用を禁止する。 関係者以外の立入りを禁止する。

<b>7 取扱い及び保管上の注意</b>	
取扱い	<p>技術的対策：8項「ばく露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実に行う。 電気機器類は防爆型（安全構造）のものを用いる。 工具は火花防止型のものを用いる。</p> <p>安全取扱注意事項：全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所で取扱う。 換気の悪い場所では局所排気装置を使用する。 人に向けて噴射しない。皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。</p> <p>接触回避：10項「安定性及び反応性」記載の混触危険物質と混合接触してはならない。</p>

	<p>衛生対策 : 取扱い後は、よく手を洗うこと。 汚染された作業衣は脱ぐこと。 また、作業場から出さないこと。</p> <p>その他 : 高圧ガス取締法による取扱いを行う。</p>
保管	<p>安全な保管条件 : 火気、熱源から遠ざけて保管する。 湿気を避けて直射日光が当たらない通風の良い涼しい 屋内貯蔵所に保管する。 子供の手の届かない所に保管する。</p> <p>安全な保管条件 : 10 項「安定性及び反応性」記載の混触危険物質と一緒に保管してはならない。</p> <p>安全な容器包装材料 : 移し変えてはならない。</p>

### 8 ばく露防止及び保護措置

許容濃度	<p>酢酸エチル : 200ppm (日本産業衛生学会勧告値 2016) (原料メーカー SDS : 2017/3/15 による)</p> <p>キシレン : 50ppm (日本産業衛生学会勧告値 (2009)) (原料メーカー MSDS : 2012/12/25 による)</p> <p>エチルベンゼン : 50ppm (日本産業衛生学会勧告値 (2009)) (キシレンの原料メーカー MSDS : 2012/12/25 による)</p>
設備対策	<p>火気厳禁の措置をとる。 換気の悪い場所においては換気の為の装置を設置する。</p>
保護具	<p>呼吸器の保護具 : 必要に応じ自給式空気呼吸器、有機ガス用防毒マスクを着用する。</p> <p>手の保護具 : 必要に応じ有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の保護手袋を着用する。</p> <p>眼、顔面の保護具 : 必要に応じゴーグルを着用する。</p> <p>皮膚及び身体の保護具 : 体に付着しないように、長袖の作業着等を着用する。必要に応じ有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の保護具 (エプロン等) を着用する。</p>

### 9 物理的及び化学的性質

物理状態	気体 (ジメチルエテルを除いた原液 : 液体)
色	微白色 (ジメチルエテルを除いた原液)
臭い	芳香臭
沸点	酢酸エチル : 77.1°C
可燃性	溶剤の蒸気と空気が混合して爆発性混合物を形成しやすい
爆発下限界及び爆発上限界	酢酸エチル・キシレン : 1.1~11.5vol%
引火点	-2°C (ジメチルエテルを除いた原液) (タグ密閉式)
自然発火点	酢酸エチル : 427°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし

溶解度	酢酸エチル : 8.1wt% 水 (20°C) キシレン : 0.02g/100g 水 (20°C)
n-オクタノール / 水分配係数	酢酸エチル : log pow=0.73 キシレン : log pow=3.12~3.20
蒸気圧	酢酸エチル : 10 kPa (20°C)
密度	0.92g/cm <sup>3</sup> /25°C (ジメチルエーテルを除いた原液) (浮き秤)
相対ガス密度 (空気=1)	酢酸エチル : 3.0 キシレン : 3.7
粒子特性	液体で対象外

### 10 安定性及び反応性

反応性	噴射後に空気中の湿気と反応し硬化するが、通常の使用では危険な反応はない。
化学的安定性	通常の手扱いは安定。
危険有害反応可能性	水と反応し炭酸ガスを発生する。密閉容器内で起こると、容器が膨れ、場合によっては破裂することもある。混触危険物質と反応、又は加熱すると火災や爆発に至ることがある。
避けるべき条件	熱、火花、裸火、高温、静電放電、混触禁止物質との接触および衝撃により、引火し火災の危険性をもたらす。 換気の悪い場所での作業では、使用している成分の相対ガス密度が空気より重いことから、周辺も火気厳禁とする。
混触危険物質	酸化物・有機過酸化物
危険有害な分解生成物	シアンガス

### 11 有害性情報 : 混合物のデータがない為、有害成分の情報を記載。

急性毒性	酢酸エチル : LD <sub>50</sub> (経口) ラット 4934mg/kg : LC <sub>50</sub> (吸入蒸気) ラット 13mg/L キシレン : LD <sub>50</sub> (経口) ラット 3500mg/kg : LC <sub>50</sub> (吸入蒸気) ラット 20mg/L エチルベンゼン : LD <sub>50</sub> (経口) ラット 3500mg/kg : LC <sub>50</sub> (吸入蒸気) ラット 17mg/L ジメチルエーテル : LC <sub>50</sub> (吸入ガス) ラット 164000ppm (NITEデータ)
皮膚腐食性 / 刺激性	酢酸エチル : ウギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性は見られなかった。 キシレン : ウギを用いた皮膚刺激性試験で、「中等度の刺激性」の結果がある。 エチルベンゼン : 24時間皮膚適用で軽度の皮膚刺激を示した。
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	酢酸エチル : ウギを用いた眼刺激性試験で角膜混濁と虹彩炎は2日までに、結膜発赤・浮腫等は7日までに消失した。 キシレン : ウギを用いた眼刺激性試験で、「中等度 (moderate) の刺激性」の結果がある。 エチルベンゼン : 軽微から軽度の眼刺激性を示すと考えられる。

<p>呼吸器感作性又は皮膚感作性</p>	<p>酢酸エチル : ヒトに適用した皮膚感作性試験で皮膚感作性は見られなかった。                  エチルベンゼン : 皮膚感作性を有しないと考えられる。</p>
<p>生殖細胞変異原性</p>	<p>酢酸エチル : ハムスターに経口又は腹腔内投与し骨髄細胞を観察した in vivo 小核試験で陰性だった。                  キシレン : ヒト経世代疫学で陰性、経世代変異原性試験なし、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験 (小核試験・染色体試験) で陰性であり、生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験なしである。                  エチルベンゼン : 小核試験で陰性。</p>
<p>発がん性</p>	<p>酢酸エチル : マウスに 8 週間腹腔内投与した試験で各群に肺腫瘍が見られたが、投与による増加では無かった。                  エチルベンゼン : 発ガンの恐れのない。IARC (2000) で 2B、ACGIH (2001) で A3 に分類。</p>
<p>生殖毒性</p>	<p>酢酸エチル : ラットに 90 日間吸入ばく露させた試験で、雌雄の生殖器、精子の数や運動性、形態等に影響は無かった。                  キシレン : マウスの発生毒性試験で親動物に一般毒性がみられない用量で、胎児に体重減少、水頭症がみられている。                  エチルベンゼン : マウス及びラットを用いた催奇形性試験において、母体毒性を示さない用量で胎児毒性 (泌尿器系の奇形) がみられている。</p>
<p>特定標的臓器毒性 (単回ばく露)</p>	<p>酢酸エチル : ネコやマウスでの吸入ばく露試験、又はウサギでの経口投与試験で一過性の麻酔作用が見られた。                  短期ばく露により、眼、気道を刺激する。中枢神経系に影響を与えることがある。                  キシレン : ヒトについては、「喉の刺激性、重度の肺うっ血、肺胞出血及び肺浮腫、肝臓の腫大を伴ううっ血及び小葉中心性の肝細胞の空胞化、点状出血と腫大及びニッスル小体の消失を伴う神経細胞の損傷、四肢のチアノーゼ、一過性の血清トランスアミナーゼ活性の上昇、血中尿素の増加、内在性クレアチニンの尿中クリアランス低下、肝臓障害及び重度の腎障害、記憶喪失、昏睡」、「肺のうっ血、浮腫、巣状肺胞出血」等の記述がある。                  エチルベンゼン : 実験動物に対する中枢神経系への影響、気道刺激性がみられる。</p>
<p>特定標的臓器毒性 (反復ばく露)</p>	<p>酢酸エチル : ラットに 90 日間経口投与した試験で 3600mg/kg/日 で体重および臓器重量の増加抑制等が見られた。                  キシレン : ヒトについては、「眼や鼻への刺激性、喉の渇き」、「慢性頭痛、胸部痛、脳波の異常、呼吸困難、手のチアノーゼ、発熱、白血球数減少、不快感、肺機能低下、労働能力の低下、身体障害及び精神障害」等の記述。</p>
<p>誤えん有害性</p>	<p>キシレン : 液体を飲み込むと、誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。                  エチルベンゼン : 飲み込むと誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。</p>

<b>12 環境影響情報</b> ：混合物のデータがない為、有害成分の情報を記載。	
生態毒性	酢酸エチル : LC <sub>50</sub> (96hr) 魚類 (ファットヘッド・ミノ) 230mg/L (SIDS, 2008) LC <sub>50</sub> (24hr) 甲殻類 (オミジノコ) 2,500mg/L (SIDS, 2008) キシレン : LC <sub>50</sub> (96hr) ニジマス 3.3mg/L エチルベンゼン : LC <sub>50</sub> (96hr) ブラウンシュリンプ 0.4mg/L
残留性・分解性	酢酸エチル : 化審法に基づく 2 週間の生分解性試験で良分解性と判断された。 キシレン : 急速分解性がない (BOC による分解度 : 38%) エチルベンゼン : 急速分解性がある
生体蓄積性	酢酸エチル : 生体濃縮係数 (BCF) : 3.2 (計算値) キシレン : 生物蓄積性が低いと推定される エチルベンゼン : 生物蓄積性が低いと推定される
土壌中の移動性	酢酸エチル : 土壌吸着係数 : K <sub>oc</sub> = 5.6 (計算値)
水層への有害性	モトリオール議定書に記載されている物質の使用はない。

<b>13 廃棄上の注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃塗料、空容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理を委託する。</li> <li>・ 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。</li> <li>・ 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法律に従って処理を行うか、専門業者に処理を委託する。</li> <li>・ 廃棄物の種類：内容物 (液体)：燃えやすい廃油 (特別管理産業廃棄物) 金属容器 (噴射させて内容物を完全に取除いたもの) ：金属くず (安定型産業廃棄物) キャップ：廃プラスチック類 (安定型産業廃棄物)</li> </ul>	

<b>14 輸送上の注意</b>	
国連番号	1 9 5 0
品名 (国連輸送名)	エアゾール (容積が 1 L 以下)
国連分類	2 - 1 (高圧ガス・引火性)
容器等級	—
海洋汚染物質	非該当
陸上輸送	消防法、毒劇法、道路法などに定められた運送方法に従う。 容器の漏れ、破損の無い事を確認し、転倒、落下等が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
指針番号	1 2 6 (ガス-圧縮)
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。

<b>15 適用法令</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防法：危険物第 4 類第 1 石油類 (非水溶性液体)、危険等級 II</li> <li>・ 危険物船舶輸送及び貯蔵規則：高圧ガス・引火性のもの (クラス 2.1)</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労安法：特化則：第2類物質（エチルベンゼン）                  有機溶剤中毒予防規則：第2種有機溶剤（酢酸エチル・キシレン）                  表示・通知義務対象物質（酢酸エチル・キシレン・エチルベンゼン）</li> <li>・ PRTR法：第一種指定化学物質（キシレン：5.7wt%， エチルベンゼン 5.7wt%）</li> <li>・ 毒物及び劇物取締法：非該当</li> <li>・ 大気汚染防止法：非該当</li> <li>・ 水質汚濁防止法：指定物質（酢酸エチル）</li> <li>・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律：該当（13項参照）</li> </ul>
--

16 その他の情報	
出典	原料メーカーの(M) SDS N I T E の G H S 分類結果データベース
その他	ホルムアルデヒドの発生、及び石綿の使用は無い。

**【注意】**

- ・ 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また新しい知見により改訂されることがあります。
- ・ 注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。特別な取扱いをする場合には、用途に適した安全対策を講じた上で実施願います。また本製品を本来の用途以外に使用しないで下さい。